

LifeKeeper for Linux v9.0.2

テクニカルアップデートインフォメーション



目次

1.	はじめに	3
2.	LifeKeeper for Linux v9.0.2 の新機能・機能変更	3
3.	LifeKeeper for Linux v9.0.2 の新規サポート OS・ソフトウェア	3
4.	重要な製品の改修	3
5.	お問い合わせ	5
6.	免責事項	5
7.	著作権	5

1. はじめに

本文書では LifeKeeper for Linux v9.0.2 (SIOS Protection Suite for Linux v9.0.2 / SPS v9.0.2) での新機能や機能変更、また、重要なバグ修正に関する概要をまとめたものです。それらに関する詳細な情報につきましては、リリースノートやオンラインマニュアルをご確認いただくか、ご契約の製品サポートにお問い合わせください。

2. LifeKeeper for Linux v9.0.2 の新機能・機能変更

[MQ]

- WebSphere MQ - マルチバージョンの WebSphere MQ のサポートが追加されました。本サポートにより、バージョン 7.1、7.5、および 8.x のキューマネージャのすべてを同クラスタノードで保護できるようになりました。
- MQ コマンドを mqm グループのユーザが代替で実行できる機能が追加されました。

3. LifeKeeper for Linux v9.0.2 の新規サポート OS・ソフトウェア

[LifeKeeper Core]

- Red Hat Enterprise Linux 7.2 がサポートされました。
なお、MySQL RK は RHEL 7.x/CentOS 7.x/OEL 7.x をサポートしていません。また、アプリケーション側の RHEL 7.2 対応状況はユーザー様にてご確認ください

4. 重要な製品の改修

v9.0.2 で行われた製品の修正の中で重要と思われる修正についてピックアップします。

[LifeKeeper Core]

- 脆弱性対応のため、OpenSSL のバージョンを 1.0.1q にアップデートしました。
- systemd を採用しているシステムにおいて、systemd の起動・終了処理に対応しました。
- ハートビート停止のログ出力を見やすく改善しました。
- ハートビート停止がより正確に検出できるよう改善しました。ハートビート停止検出にアラームを用いており、従来はシグナルハンドラの呼び出し遅延によりハートビート停止を検出することがありました。
- Set Confirm Failover On を設定していると、リソース障害でも切り替えの確認が行われる不具合がありました。この問題を修正しました。
- RHEL7 等において、システム終了時にログが欠損することがありました。この問題に対する対応を行いました。

[DataKeeper]

- 圧縮処理を行う balance が高負荷でハングアップする問題を修正しました。
- マルチサイト構成において、data_corrupt フラグの設定が正しくない問題を修正しました。これにより、不要な同期処理が行われなくなります。

[Filesystem]

- FILESYSFULLWARN/FILESYSFULLERROR に 0 を設定した場合、警告/エラーが無効化されていない問題を修正しました。

[EC2]

- AWS API 不通時に、quickCheck が失敗しないように改善しました。
- AWS API 不通時にイベント通知が行われるようにしました。

[MQ]

- ログが正しく表示されない問題を修正しました。
- MQ リソース作成時に、不適切な IP アドレスが表示される問題を修正しました。
- MQ リソース作成時、MQS_DEBUG が設定されていると GUI 画面に意図しないメッセージが出力される問題を修正しました。
- MQS_FORCE_CLEANIPC が設定されている場合、リソース切り替え時に意図しない処理が実行される問題を修正しました。
- CleanIPC のログが正しくない問題を修正しました。
- MQ リソース作成時、常にユーザとして root を使用する問題を修正しました。
- MQ リソース作成時にリスナーが動作していない場合、不適切なエラーメッセージが出力される問題を修正しました。

[Oracle]

- リスナーリソース作成時、不適切な IP アドレスが表示されることがある問題を修正しました。

[PostgreSQL]

- リソース拡張時、ターゲットノード上でポートが既に使用されている状況でもエラーとならない問題を修正しました。

[SAP]

- 異なるモジュール間で同一の関数名を使用していたことにより、デバッグ出力に問題がありました。これを修正しました。
- リソースが正しく起動しない恐れがある問題を修正しました。

[PowerPath]

- powermt コマンドによる論理デバイス名の出力形式が変更されたことに伴う対応を行いました。

[Licensing]

- Flexnet パッケージを更新しました。

5. お問い合わせ

本ドキュメントの記載内容について、疑問点等がある場合は弊社サポート窓口までお問い合わせください。なお、お問い合わせの一次窓口が弊社ではない場合があります。サポート証書にてサポート窓口を確認のうえ、適切な窓口にお問い合わせください。

<http://www.sios.com/products/bcp/lkdk/contact/>

6. 免責事項

- 本書に記載された情報は予告なしに変更、削除される場合があります。最新のものをご確認ください。
- 本書に記載された情報は、全て慎重に作成され、記載されていますが、本書をもって、その妥当性や正確性についていかなる種類の保証をするものではありません。
- 本書に含まれた誤りに起因して、本書の利用者に生じた損害については、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。
- 第三者による本書の記載事項の変更、削除、ホームページ及び本書等に対する不正なアクセス、その他第三者の行為により本書の利用者に応じた一切の損害について、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。
- システム障害などの原因によりメールフォームからのお問い合わせが届かず、または延着する場合がありますので、あらかじめご了承ください。お問い合わせの不着及び延着に関し、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。

7. 著作権

本書に記載されているコンテンツ(情報・資料・画像等種類を問わず)に関する知的財産権は、サイオステクノロジー株式会社に帰属します。その全部、一部を問わず、サイオステクノロジー株式会社の許可なく本書を複製、転用、公衆への送信、販売、翻案その他の二次利用をすることはいずれも禁止されます。またコンテンツの改変、削除についても一切認められません。本書では、製品名、ロゴなど、他社が保有する商標もしくは登録商標を使用しています。